

気象キャスターが解説!
天気のみかた

連載第15回

冬の気候いろいろ
ポイントは“日本の背骨”
気象キャスターネットワーク

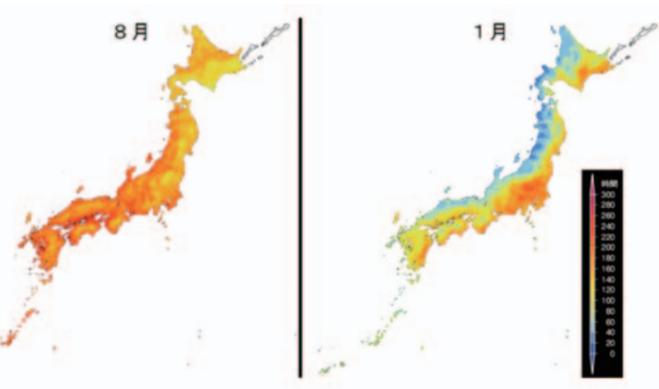


(会津地方 大内宿の雪祭り 2018年2月)

「冬といえば・・・」と聞かれて思い浮かぶのはどのような景色でしょうか?

雪がどっさり積もった景色を思い浮かべる方もいれば、冷たい空っ風が吹く景色を想像する方もいたり、出身地でそれぞれイメージが変わると思います。実は日本の四季の中で冬の天候は、最も地域で差が大きくなります。今回は、冬の天候の地域差について詳しく見ていきましょう。

晴天続きの太平洋側
雪続きの日本海側



(図-1 日照時間 平年値) 気象庁「メッシュ平年値図」を転載

図-1は、8月と1月の日照時間(日が差している時間)を表したものです。夏(8月)は日本全国それほど大きな差はありませんが、冬(1月)は太平洋側と日本海側の違いが一目でわかりますね。

太平洋側は、日照時間が冬に最も長くなります。晴れが多く空気はカラカラ。朝は底冷えといった天候です。

一方、日本海側は、日照時間が冬に最も短くなるという、対照的な天候。例えば、北陸地方では平年1月一ヶ月の晴れ(日照時間40%以上)の日の出現率は、約20%。5日に1度しか晴れの日がない計算となります。

この謎を解く鍵が、降水量。雪や雨が多いことが、ここまで日本海側の日照時間を短くしています。平年の降水量を比べると、日本海側の金沢は、太平洋側の東京の約5倍にもなります。

なぜここまで太平洋側と日本海側で天候が大きく異なるのでしょうか。

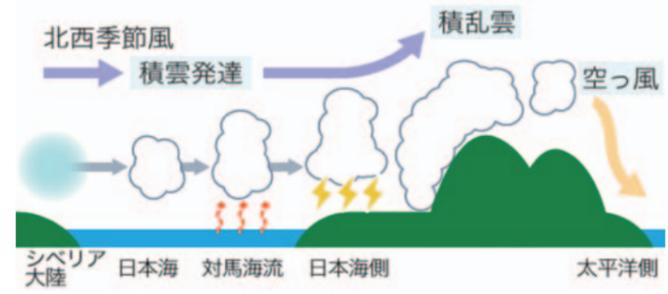
天気を分ける要因は“日本の背骨”

日本の国土最大の特徴は、山地が、まるで日本列島の“背骨”のように連なっていて日本海側と太平洋側に分け隔てていることです。この日本の背骨ともいえる山脈が、天気を日本海側と太平洋側に分ける大きな要因です。冬は、大陸から北よりの冷たい季節風が吹き出し、日本海の上を通過して、日本列島にやってきます。日本海には、対馬海流という暖かい海流があります。このため大陸からの季節風にとっては、日本海はアツアツのお風呂と言えるような気温差が生まれます。

大陸からの冷たい季節風が日本海上で温められて蒸発し、雪雲が次々と発生。日本海側の地域に流れ込みます。上空に強い寒気が入ってきたり、この雪雲が山脈にぶつかることでさらに発達し、大雪をもたらします。発達した雪雲は、夏に土砂降りの雨をもたらす積乱雲にまで成長することも多くあり、日本



(図-2 日本の山地) 国土技術研究センター Webサイト掲載図を転載



(図-3 日本海側と太平洋側で天気が異なる仕組み) 提供: ウェザーニューズ

海側は、冬に雷が最も多くなります。図-4の雷日数を見てみると、太平洋側の宇都宮では夏に雷が頻発していますが、日本海側の新潟は冬にピークを迎えていることが分かります。



(図-4 雷日数)

冬に雷が頻発する地域は、他にはノルウェーの西海岸、北米の五大湖から東海岸くらいでしか見られない、珍しいものです。

一方、この季節風が山脈を乗り越えて太平洋側にたどりつくころには、空気中の水分を雪として出し切っています。このため、太平洋側の地域にはカラカラに乾いた“空っ風”が吹き、晴れの日が多くなるのです。

ちなみに、川端康成 作『雪国』で有名な冒頭の「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」は、太平洋側の群馬県から日本海側の新潟県に抜けるトンネルが舞台となっています。冬の太平洋側と日本海側の気候が大きく異なることを表していたのですね。

天候の縮図!?日本海側と太平洋側の天候をあわせ持つ福島県

図-1を見ても分かるように、私がいま住んでいる福島県は、日本海側の気候と太平洋側の気候が入り交じる、日本でも有数の県です。県内は、西から会津・中通り・浜通りの3地域に分けられ、天気も地域ごとに特徴があります。福島県は日本で3番目に大きい面積で、東京都の約6倍。県内でも気候が大きく異なるほど広大な土地です。



(図-5 福島県 地域図)

会津は、雪が多い日本海側の気候。特に豪雪地帯の奥会津では一晩で1メートル以上雪が降ることもあり、最深積雪が5〜6メートルにも達します。浜通りは、乾燥した晴れが多い太平洋側の気候です。雪はほとんど降らず、東北地方の中では最も温暖なエリア。車は1年中夏タイヤという人も多くいます。真ん中の中通りは、日本海側と太平洋側の中間の気候となっています。会津ほど雪は降らず、福島市の最新積雪は、平年で20センチ弱。ただ、寒気が強まると日本海からの雪雲が山を越えて中通りにまで流れ込みドカ雪となるケースもあります。

福島県の冬の天気は、地域ごとに大きく異なり住み始めてすぐの頃は本当に驚きました。気象予報士泣かせの気候ともいえますが、一方で、多岐にわたる素晴らしい冬の景色を作り出してくれています。

ぜひ一度、冬の福島に来て観光に加え天気の違いまで味わってみませんか?

どいくにひろ
土井 邦裕

Profile

KFB福島放送気象キャスター
気象予報士・防災士
愛知県出身、愛知大学経済学部卒業。
大学在学中に気象予報士の資格を取得。
愛知県の放送局を経て、現在はKFB福島放送の気象キャスター。
趣味はギター、ライブに行くこと、自転車や鉄道での旅行。鳥好きで、日本野鳥の会会員。